

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990300147		
法人名	社会福祉法人 星風会		
事業所名	星風会グループホームこすもす2号館		
所在地	栃木県栃木市惣社町123-3		
自己評価作成日	令和 4年11 月30 日	評価結果市町村受理日	令和5年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 5年 1月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症への理解、感染症対策、非常災害時対策、身体拘束廃止・虐待防止など委員会が中心となり、内部研修や委員会活動を意欲的に行っています。 ・行食事や手作りおやつなどは、利用者の要望を反映するとともに、できる範囲で一緒に調理をしています。 ・利用者や家族の希望に応じて、法人内の医師や看護師のサポートを受けることができます。また、外部への通院なども安心して行えるよう医療連携を整えています。 ・サービス提供加算(Ⅱ)の体制を整え、ケアの質の向上に取り組んでいます。 ・口腔衛生管理体制加算の体制を整え、職員が月1回歯科衛生士の指導を受け、口腔衛生の知識や技術を学び利用者の健康増進に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>栃木市の東部、幹線道路近く、広々とした田園地帯に住宅が点在する中に当事業所は位置している。経営する法人は、栃木市内でグループホームの他、病院、デイサービスセンター、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム等を有し、法人内で協力体制を整え、医療面、生活面でも充実したサービスを提供している。職員は利用者一人一人を尊重し、持てる能力を活かすよう丁寧に笑顔でケアにあたっている。また、事業所は、職員の声を大切に話しやすい環境を作り、できるところは改善するよう積極的に取り組んでいる。まだコロナ禍にあって自粛が続き制限も多い中、家族や地域との関係を大切に、利用者がより充実した生活ができるよう支援している。明るく家庭的で温かい事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に施設理念を作り、事務所内に掲示して共有しケアの実践に繋げている。	「一人一人の思いを尊重し、自分らしく暮らせる家づくり。家族との絆、地域とのつながりを大切にします。尊敬と感謝する心を大切にします。」という理念を、会議録や口頭等様々な機会に職員に周知し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花見で地域の公園に出かけたり、スーパーに買い物やホームセンターに時計の修理などに出かけている。	コロナ禍以前は、地域の行事に参加したり、ボランティアを受け入れたり、地域と活発に交流していたが、現在は自粛し、コロナの感染状況を見ながら、季節の外出や買い物に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	国府地区高齢者ネットワーク推進会議や介護・障がい事業所情報交換会において情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのため、実施できていないが、書面にて情報提供をしている。12月は、国府公民館を借りて、実施予定。	コロナ感染予防のため、資料を送付する書面での開催だったが、2022年12月は、密を避けて公民館で開催することができた。直接、参加者から疑問点を聴いたり、事業所も地域の様子を聴くことができて、有意義な内容であった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の加算申請や補助金申請などについて、直接市に出向いたり、電話やメールでやり取りをしている。	市の介護保険担当者と対面や電話等で、手続き等についてやり取りしている。事業所の希望したりフト浴設置についても、費用や手続き等相談し、購入を円滑に行うことができたなど、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に内部研修を行っている。特にグループホームでの拘束に目を向け知識を深め拘束しないケアを実践している。	定期的に身体拘束についてマニュアルに沿って研修している。特に、スピーチロックが拘束にあたることを意識するよう指導し、言葉かけについての研修を重点的に行って身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための標語を作り、ユニット内などに掲示し虐待防止の徹底に努めている。 職員にストレスチェックを実施し、他の職員のストレス解消法等を参考にできるようにしている。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止マニュアルを基に研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に重要事項説明書や契約書の説明を行っている。改定時には、説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会及び電話連絡時にご意見やご要望を伺っている。アンケートを実施し職員間で共有し、改善を図っている。	家族の訪問時や家族への電話連絡時に、意見を聴きとることができるよう、信頼関係を築いている。家族からの要望がきっかけで、風呂場にリフト浴を設置することができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、職員会議、各委員会において、意見交換・提案をもらい、職員間で検討し運営や業務に生かしている。	日頃から管理者は、職員と何でも話し合える関係を築いている。職員が休憩時間を確保できるよう業務改善したり、職員の現場の意見をきっかけにマニュアルの見直しを行うなど、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、資格取得による昇給などの制度や奨学金制度が利用できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の定期開催、必要に応じて外部受講の機会を設けている。外部研修に参加したら、他の職員も学べるよう発表する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に所属している。 コロナ禍のため研修に参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に面談を行い、不安や要望を伺い、丁寧に説明することで安心や信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受付時、実態調査時に家族の困っていること等を聞き取り丁寧に説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を確認し、また、身体状況を把握し、その方に合った支援をしている。 (継続してかかりつけ医への通院、福祉用具の設置、食事制限等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の会話の中で、何を望んでいるか何ができるのかを把握し、おやつ作り、食事の後片付け、洗濯物干し・たたみなどを会話しながら行っている。差し入れていただいた野菜などは、調理して提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子、体調の変化を面会や電話で伝えている。ケアの方針その他のことを家族と共有し不安軽減に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会は、ガラス越しで行っている。かかりつけ医への通院やなじみの場所へ家族が同行していけるよう支援している。	コロナ禍であるが、面会は、要望があれば出来るだけ受け入れ、ガラス越しに10分程度実施している。家族がかかりつけ医へ同行して通院した際には、帰りにコンビニエンスストアに立ち寄って買い物を楽しむこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事前に全員のテーブルを拭いてくれる。会話に職員が入ることにより、話題が増え楽しみながら関わりあえる。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談や支援に応じることができることを伝え、ご要望があれば必要時の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、コミュニケーションを多くとるようにし、本人の思っていることや気持ちを聞き取るようにしている。また、意思疎通の困難な方の場合、日頃の様子からくみ取ったり、家族から聞き取りし情報を把握している。年に1回利用者アンケートを実施している。	意思疎通が難しく、言葉が分かりづらい利用者にも職員は常に寄り添い、会話を積み重ねることによって、利用者の言葉、表情等、全体の様子から意思を把握することができている。利用者、家族アンケートを年1回実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族から生活歴などを確認し職員間で共有している。入居後は、日々の会話の中から情報収集し、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や申し送りノートに記入し一人ひとりの状況を把握している。毎日バイタル測定や食事量、排泄の確認をし、健康状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、作成担当者が本人・家族の意向を面会時や電話で確認し、支援記録や職員からの聞き取りをして作成している。モニタリングについては、会議の中や日頃のケアの中で確認し次の介護計画に繋げている。	半年毎にサービス担当者会議で、支援記録を基に利用者のできること、問題点を話し合い、問題解決の意見を出して介護計画に取り入れている。日頃から職員が情報交換し、必要に応じてモニタリングし早めに対策を立て、介護計画に活かしている。	介護計画に入れる内容の一つ、身体機能維持のために、利用者が少しでも意欲的に活動できるよう、工夫実践することが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に生活の様子を記録し情報を共有している。状態に変化があった場合は、随時話し合い支援を見直しケアに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向を尊重し、その時々ニーズに応じて、話し合いを行い、柔軟に対応できるよう家族の協力を求めながら支援に努めている。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通院・買い物や家族や職員とできるよう支援している。近隣の公園を利用し季節行事を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医については、入居後も通院ができるよう支援している。また、法人内の医師に切り替えることもできる。法人内の訪問看護とも契約ができている。希望に応じて、医師が紹介状を作成したり、入院時は生活状況の情報提供をしている。	同じ法人内の医療機関を大半の利用者がかかりつけ医としている。内科以外でかかりつけ医のある利用者の通院は、家族が行っている。利用者が必要であれば、個別に訪問看護の契約ができる等、安心な医療体制を整え適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の訪問看護師と24時間の医療連携体制をとっている。週1回の訪問時は、利用者の状態報告をし、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、医療連携室との情報交換や家族と連絡を取り合いスムーズに退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に利用者・家族に重度化、看取りについての説明を行い同意をもらっている。法人内の医師や看護師と連携し可能な範囲で利用者・家族の望む看取りに取り組んでいる。看取った後は、施設内でカンファレンスを行い、支援の振り返りをしている。	希望する利用者があれば看取りを行っている。重度化、看取りについて、事業所で出来る範囲、状況に合わせた対応を説明し、利用者・家族の希望を聞き取り、事前に確認書を作成している。終末期のあり方について、再確認しながら、利用者・家族等が終末期を後悔無く過ごせるよう、対応して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応に備え、マニュアルを基に研修を行っている。事故報告書やヒヤリハット報告書を活用して事故の再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者参加の避難訓練を毎月行い、全職員交代で参加している。夜間帯での避難訓練や水害を想定した訓練を実施している。緊急連絡先には、地域住民も登録し、協力体制を整えている。	利用者の避難誘導を実際に行う訓練を毎月行い、地域住民も参加し地域との協力体制を築いている。夜間帯の訓練もしている。備蓄は、倉庫に置いて食材・コンロ等を管理している。食材は購入時期によって使いながら補充し、無駄なく整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や認知症の理解を深めるため、内部研修を行い、全職員で人格の尊重やプライバシー保護の取り組みをしている。	接遇や利用者の人格尊重、プライバシーについて学ぶために、基礎研修委員会が中心となって、全ての職員が研修を受け、日々のケアの中で意識できるよう体制を整えて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じて、意思表示ができるような環境づくりに努めている。言葉で思いを伝えられない利用者は、選択肢を用いたり、言動から読み取り自己決定できる機会を作れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、声掛けをしながら自分のペースで生活できるよう支援している。レクリエーションや行事への参加は、強制せず本人の意思を尊重している。興味のあるものを行事に取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みやこだわりを尊重しながら、季節に適した衣類を選んで着られるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者から食材や献立が届き、ユニットごとに調理している。利用者の要望や状態に応じて食事形態を工夫している。テーブル拭きや後片付けと一緒にやっている。	食材業者の献立に基づいて、ユニットごとに調理し食事を提供している。利用者の好みを把握し、特別食の時は手作りの食事、時にはテイクアウトの食事を用意し、楽しめるよう努めている。職員も利用者と同じ食事をし、一緒にテーブル拭きや下膳を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態や食事を提供している。脱水予防に、入浴後や水分摂取量の少ない方には、スポーツドリンクや好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士から研修を受け、毎食後個別に応じた声掛けや介助をしている。就寝時には、義歯洗浄を行い清潔保持に努めている。異常がある場合には、家族に相談し、法人内の歯科やかかりつけ医にかかるなどの支援をしている。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子利用者も少しでも立位が可能な方は、トイレ誘導や声掛けを行っている。訴えができない方は、表情や体動の変化でトイレ誘導し失敗が少なくなるよう取り組んでいる。廊下の壁には、利用者の目線の位置にトイレの矢印をつけ、自分でトイレにいけるよう配慮している。	排泄の際は1対1で介助し、昼も夜も出来る限り声掛け誘導し、自立した排泄ができるよう支援している。利用者の状態に合わせてオムツ、リハビリパンツ、パットを適切に使いながら安心安全な排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、状況の把握に努めている。毎日乳製品の提供や体操の時間を設けている。水分摂取量の少ない方には、好みの飲み物や、スポーツドリンクを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴ができるように支援している。入浴時間は午後の時間帯で、一人ずつの対応をしている。利用者の好きな温度にするなど個別対応をしている。好みのシャンプーを使用したり毛染めなども個別に対応している。浴室にリフトを設置したので、寝たきりの方も安全な入浴が可能となった。	週3回を目安に、一日に3～4名ずつ入浴できるよう支援している。拒否のある利用者には、声掛けを工夫している。沐浴剤は利用者の肌に合わない場合もあるので、適宜使用している。リフト浴設置により、快適で安全な入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の習慣やペースに合わせて休んでいただいている。寝具や温度調整は個々のニーズに応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴と服薬情報をファイルに綴じている。変更があった場合は、服薬チェック表に記載し情報を共有している。症状の変化は、生活記録や申し送り等で共有し、必要時医師に相談している。服薬支援は、2重のチェックを行い、事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を続けることで、楽しみのある生活が送れるように支援している。また、生活歴を把握し家事や活動の場など個々に役割を持っていただき、張り合いや生きがいを感じられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーへの買い物や、腕時計修理ではホームセンターへの外出支援をしている。季節の外出では送迎車を使って公園などを利用している。また、希望がある時は少人数で外出している。外泊や外食など家族の協力を得て行っているが、感染症予防のため、現在は自粛している。	コロナの感染状況を見ながら外出支援している。身近な買い物をはじめ、紫陽花、蓮の花、桜、銀杏、彼岸花等を見に季節ごとに出かけている。現在は実施できていないが、お墓参り等、家族と共に外出することも支援している。	

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、施設で管理しているが、本人と家族の意向により、本人が所持している場合もある。自動販売機なども利用できている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している場合は、いつでも家族や知人と連絡できるようになっている。事務所の電話も利用できるようにしている。年賀状など希望がある時はやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、環境整備を意識し温湿チェック表、消毒チェック表を活用して、安全かつ生活しやすい空間になるよう取り組んでいる。季節ごとの掲示物は、利用者と一緒に作成し、フロアに展示することで、季節感や生活感を感じられるようにしている。	快適な空間を作るため、部屋の空調を職員が温度管理している。手すり・ドアノブ等の消毒もチェックしながら行っている。壁の掲示は、季節感が感じられるよう、利用者と一緒に工夫している。蘭やポインセチア等季節の品は、頂き物がある時に期間を決めて飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角に畳スペースがあり、気の合う方とお話を楽しんだり、横になりくつろぐことができる。廊下にも椅子があり、ご利用いただける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた筆筒や椅子など持参されている。仏壇や配偶者の写真なども飾っている方もいる。本人の希望があれば整理整頓を一緒に行っている。	部屋の温度管理は職員が行っている。エアコン、洗面台、押入、防災のカーテンが備え付けてあり、介護ベッドはレンタル、布団、シーツは持ち込みである。畳に布団を敷く生活を希望する利用者にも対応している。利用者各々が快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札、トイレ表示を行い自立して移動できるようにしている。居室内は、本人に聞きながら使いやすいようにつく安全に生活ができるように家具やベッドの配置を工夫している。		